



堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

令和5年4月 第1号

校長 阿久津 光生

〒114-0004

東京都北区堀船 2-23-20

Tel 03-3911-8817

《令和5年度 新年度・新学期が始まりました》

4月に入り、校庭の草木も新しい葉を広げ、緑がまぶしくなってきました。春の訪れとともに、堀船中学校でも令和5年度の新学期が始まります。新入生56名、2年生71名、3年生73名、全校生徒200名での船出です。

新たな気持ちのもと、共に助け合いながら、新年度・新学期をスタートしましょう。

思いやりや優しさを持って、友達・仲間を大切にしながら、みんなで前向きに取り組んでいきましょう。そして、堀船中の良い伝統を受け継ぎながら、生徒のみなさんと教職員が一丸となって、より良い学校をつくっていきましょう。

《本校の教育目標等です》

北区教育ビジョン2020の人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康にして、国際的視野に立った社会に貢献し、自立した人を育成する。

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

【目指す堀船中学校像】

- ・生徒が主体的・協働的に学び、自ら問題解決を求める授業が展開される学校
- ・思いやりの心と、互いに認め合い、励まし合い、高め合う人間関係がある学校
- ・心身ともに健康で、豊かな心を育む学校 ・明るく元気の挨拶が飛び交う学校 ・地域に愛され、落ち着いた環境が整備された学校

【目指す堀船中生徒像】

《生活目標:堀船中生5項目》(生徒手帳掲載)

- 1 何事にもみんなで協力して取り組む堀中生
- 2 すべての人に思いやりの心が持てる堀中生
- 3 誰にでも自分から先にあいさつができる堀中生
- 4 どんな時にも時間やルールマナーを守る堀中生
- 5 誰の話でもきちんと聴くことができる堀中生

《堀船中ホームページ》

北区メール配信サービスと連動してお伝えします。メインサイトは、学校で配布する様々な通知や各種たよりを掲載し、学校が発信する情報をお知らせします。また、生徒のみなさんが活躍する姿や、教育活動の様子をできる限り伝えていきます(ほぼ毎日更新しております。生徒の様子をご覧ください)。

ホームページが更新されたこと等は随時、北区メール配信サービスを活用してお知らせいたします。メールには、ホームページにすぐアクセスできるようにリンクを貼っているため、スマホ等によりその場でご覧いただけます。メールやホームページの情報は、お子様とぜひ、共有してご活用ください。

《祝 令和4年度卒業生 佐藤颯馬さん 北区かがやき賞を受賞しました》

3月16日(卒業式前日)、北区役所において昨年度卒業生 佐藤(颯)さんが、東京都北区子どもかがやき顕彰(北区かがやき賞)を受賞しました。おめでとうございます。佐藤(颯)さんは、全国中学生都道府県対抗野球大会で全国3位となったオール東東京のキャンプテンとして出場し、活躍しました。かがやき賞は、全国でトップクラスの成績をおさめた人たちに贈られる大変名誉ある賞です。高校での活躍も応援しています。



堀船中ホームページ QRコード



学校だより、令和5年度は津田梅子の生き方について紹介します

本校の学校だよりでは、令和2年度・3年度は、新1万円札の肖像画に描かれる渋沢栄一について紹介してまいりました。「日本の資本主義の父」「日本経済の父」などと呼ばれる人物です。幕末に一橋慶喜(後の15代将軍となる徳川慶喜)に仕え、明治維新後は政府で働きました。その後、日本で最初の銀行である第一国立銀行(現みずほ銀行)を設立。実業界に身を置くと、第一国立銀行のほか、東京証券取引所、東京ガスやキリンビールなど、設立に関わった企業は実に500以上とされています。

そして、昨年度(令和4年度)は、近代日本医学の父・北里柴三郎の生き方を紹介してまいりました。新千円札の肖像に選定された北里は、今から130年前、伝染病との闘いに挑み、画期的な発見の数々によって多くの人々の命を救った人物です。ドイツに留学して細菌学者のコッホに師事し、世界で始めて破傷風菌の培養に成功、治療法を開発しました。帰国後も伝染病予防や細菌学の研究に取り組み、1894年にはペストの原因調査のため香港に赴くと、病原菌であるペスト菌を発見しています。北里大学の前身となる「北里研究所」を設立したほか、慶応大学医学部の創設にも尽力しました。

そして今年度は、津田梅子の生き方について、学校だよりに掲載してまいります。2024年(令和6年)に新たな五千円札の肖像となる津田梅子の名前は、「津田塾大学の創立者」として知られています。また、明治新政府が欧米に派遣した「岩倉使節団」に同行した最初の女子留学生の1人です。日本初の女子留学生としてアメリカに渡ったのは、わずか6歳の時でした。それから約11年間にアメリカに滞在し、帰国後は日本の女子高等教育に身を捧げました。

1900年に、私立の女子高等教育機関としては日本で初めての「女子英学塾(現津田塾大学)」を設立しました。日本の女性達が高等教育を受けられる機会を創出し、男性と同じように社会で活躍できる開かれた時代を目指して多大なる努力をした津田梅子。津田の生き方は、女性の更なる地位向上や個性の尊重が求められる令和の時代へと通じる先駆けであり、正に新紙幣にふさわしい人物と言えるのです。

出筆にあたりましては、学校法人津田塾大学津田梅子資料室をはじめ、関係機関にご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えております。引き続きお読みいただけますと幸いです。



【提供】お札と切手の博物館



【提供】お札と切手の博物館



【提供】お札と切手の博物館